

## 国際金融パネル

### 『グローバル・インバランスと世界金融危機』

藤田誠一（神戸大学）

#### パネルの趣旨

グローバル・インバランスは、アメリカの赤字とアジア諸国（とりわけ中国）の黒字の拡大という、経常収支面における不均衡である。他方、経常収支と表裏一体関係にある資本収支面では、アメリカへ大量の資金が流入し続けてきた。

アメリカへの資金流入はアメリカ経常収支をファイナンスしており、資金流入が減少することはアメリカの対外不均衡の維持可能性に疑問を投げかけ、ドル危機を引き起こすとするこれまでの見解は、今回の世界金融危機により見直しを迫られている。

第 1 に、グローバル・インバランスの原因を中国の過剰貯蓄に求める **Saving Glut** 説に加えて、世界金融危機の原因をアジア諸国からの対米資金流入に求める見解や、新興国における資産欠乏とドルの魅力がアメリカへの資金流入の原因であるとする **Asset Shortage** 説がアメリカで主張されている。

第 2 に、世界金融危機の結果、アメリカ市場が金融危機の引き金となったにもかかわらず、ドルは円を除く他の通貨に対して増価するという現象が見られた。

本パネルは、今回の世界金融危機の原因とその波及メカニズムを検討することを通じて、グローバル・インバランスと国際資金フロー、さらにはドル体制の関係について考えることをねらいとしている。田中報告は、グローバル・インバランスを歴史的・理論的な視点から論じ、グローバル・インバランスと世界金融危機の関係を論じる。岩壺報告は、対米資金流入の 1 形態である円キャリー・トレードを取り上げ、アメリカの資産バブルへの影響を検討することで世界金融危機の原因を論じる。さらに白井報告は、グローバル・インバランスを支える体制としての「ブレトンウッズⅡ」仮説を念頭に、世界金融危機後の国際通貨体制を論じる。